

正規転換の質は 年齢によってどう異なるのか

労働政策研究・研修機構(JILPT)
総合政策部門 高橋康二

1. はじめに (1)背景

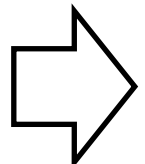
「不本意非正規の正規転換」の政策課題化

労働経済白書(2015年版):

- 2014年度に、不本意非正規雇用労働者の人数が減少したことに言及。
- 同じく、非正規雇用から正規雇用への転換が進んだことを強調。

厚生労働省:

- 2015年9月24日、「正社員転換・待遇改善実現本部」を設置。
- 2015年10月28日、日本経団連、経済同友会に対し、「とりわけ不本意ながら非正規雇用労働者として働く方への支援を強化する観点」から、「正社員」、「多様な正社員」への転換を図っていくことが重要であることに触れ、それへの協力を要請。
- 2016年1月に「正社員転換・待遇改善実現プラン(5か年計画)」を策定し、不本意非正規比率などに目標値を設定する予定。

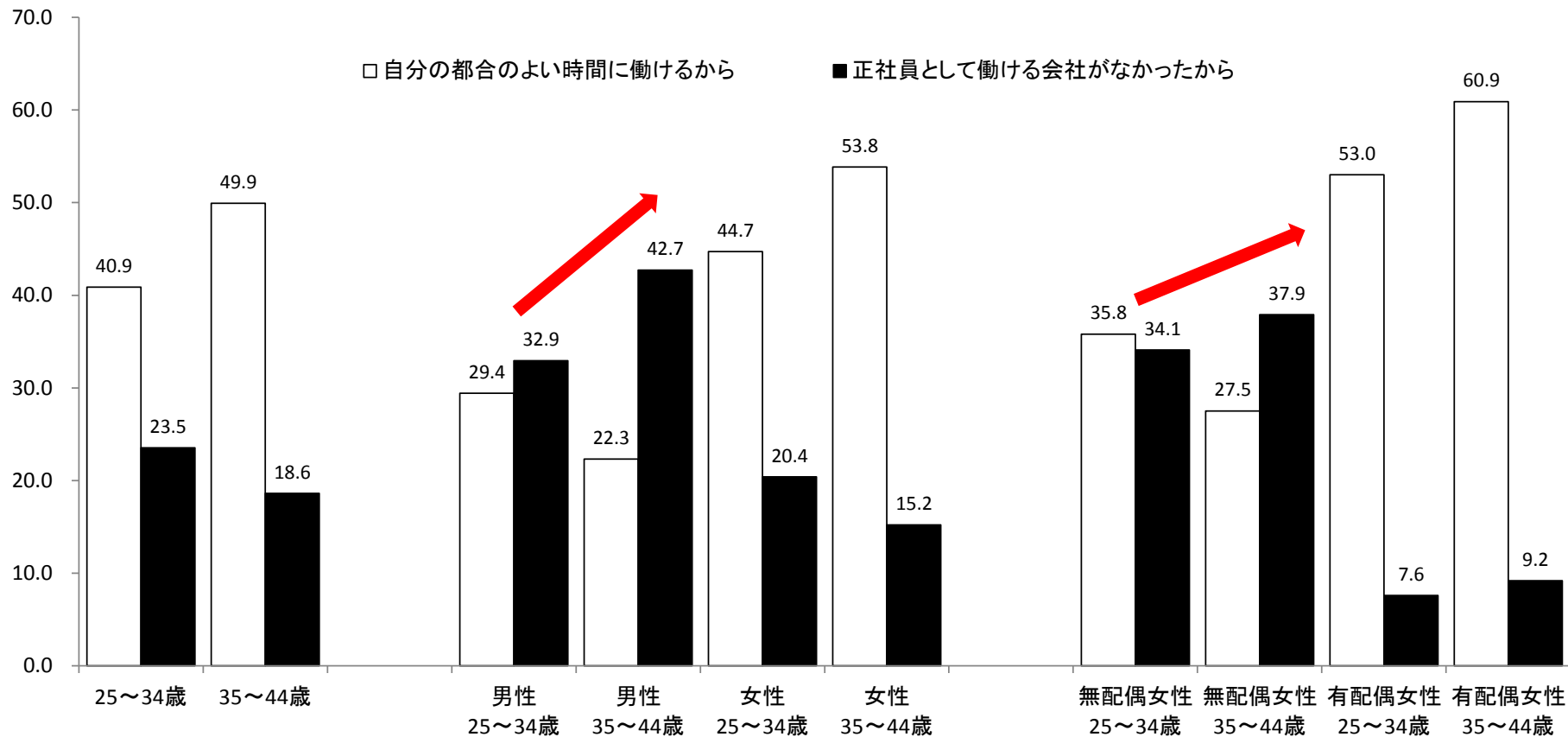
 さしあたり本研究は、正規・非正規問題への短期的な対処療法として、「不本意非正規の正規転換」を促進することの必要性を認める立場。

1. はじめに (2)予備的分析

①不本意非正規とはどのような人か？

非正規雇用労働者の就業形態選択理由(MA, %)

資料出所: JILPT編(2014)巻末集計表より。



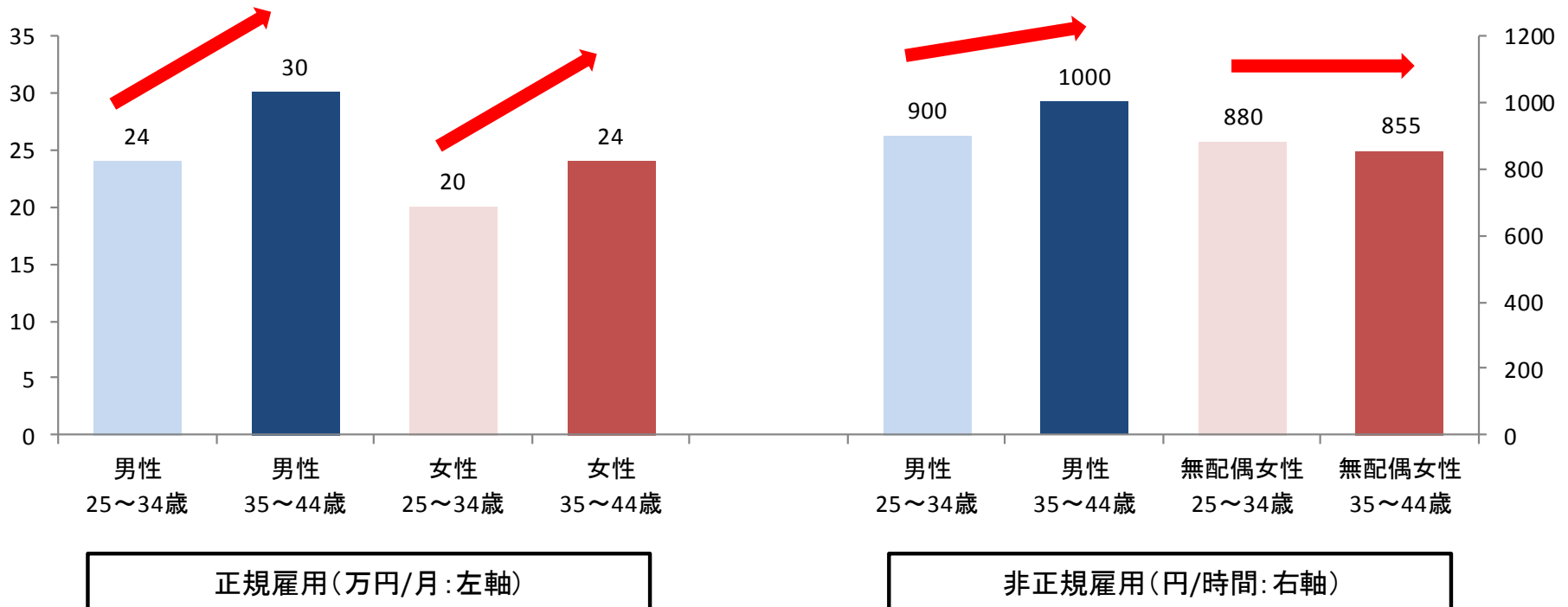
➡ 男性、無配偶女性では、年齢が高いほど「不本意」比率が高い。

1. はじめに (2)予備的分析

②年齢と賃金

賃金(中央値)

資料出所: JILPT編(2014)巻末集計表より。



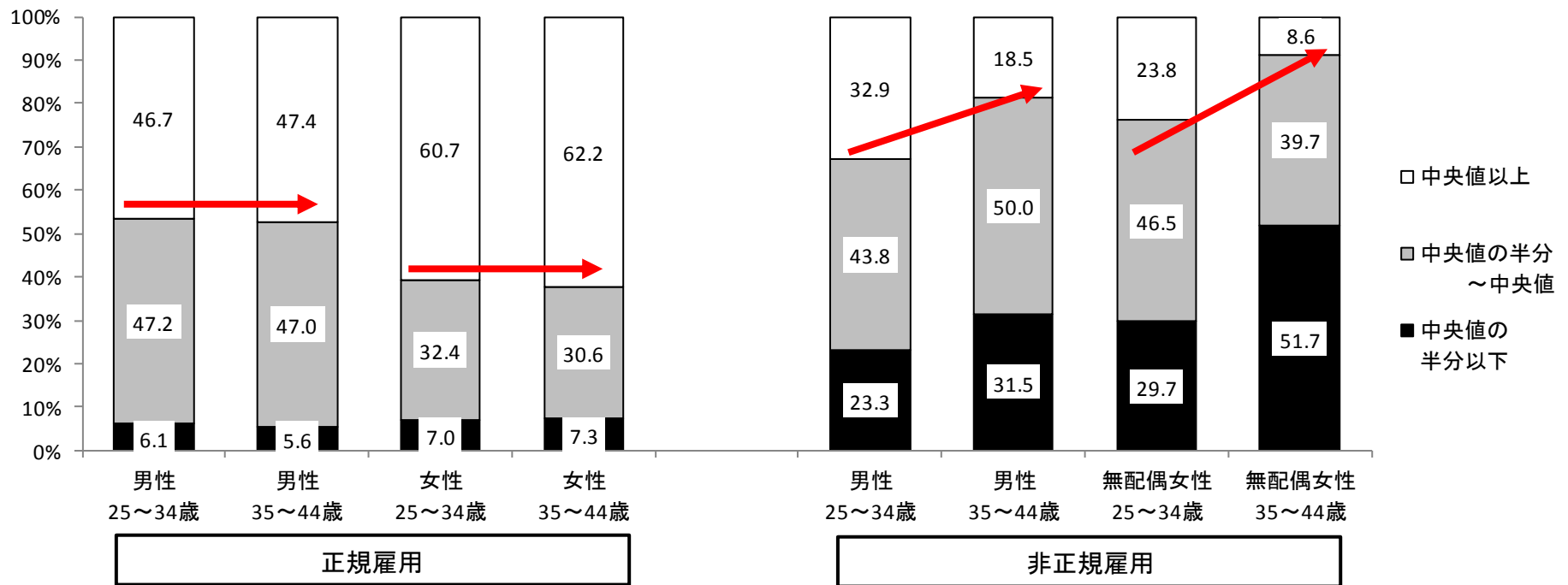
➡ 正規雇用の場合とは異なり、男性、無配偶女性の非正規雇用では、年齢が高くても賃金はさほど変わらない。

1. はじめに (2)予備的分析

③年齢と生活水準

等価所得の分布

資料出所: JILPT編(2014)第5章(福井康貴執筆)より。



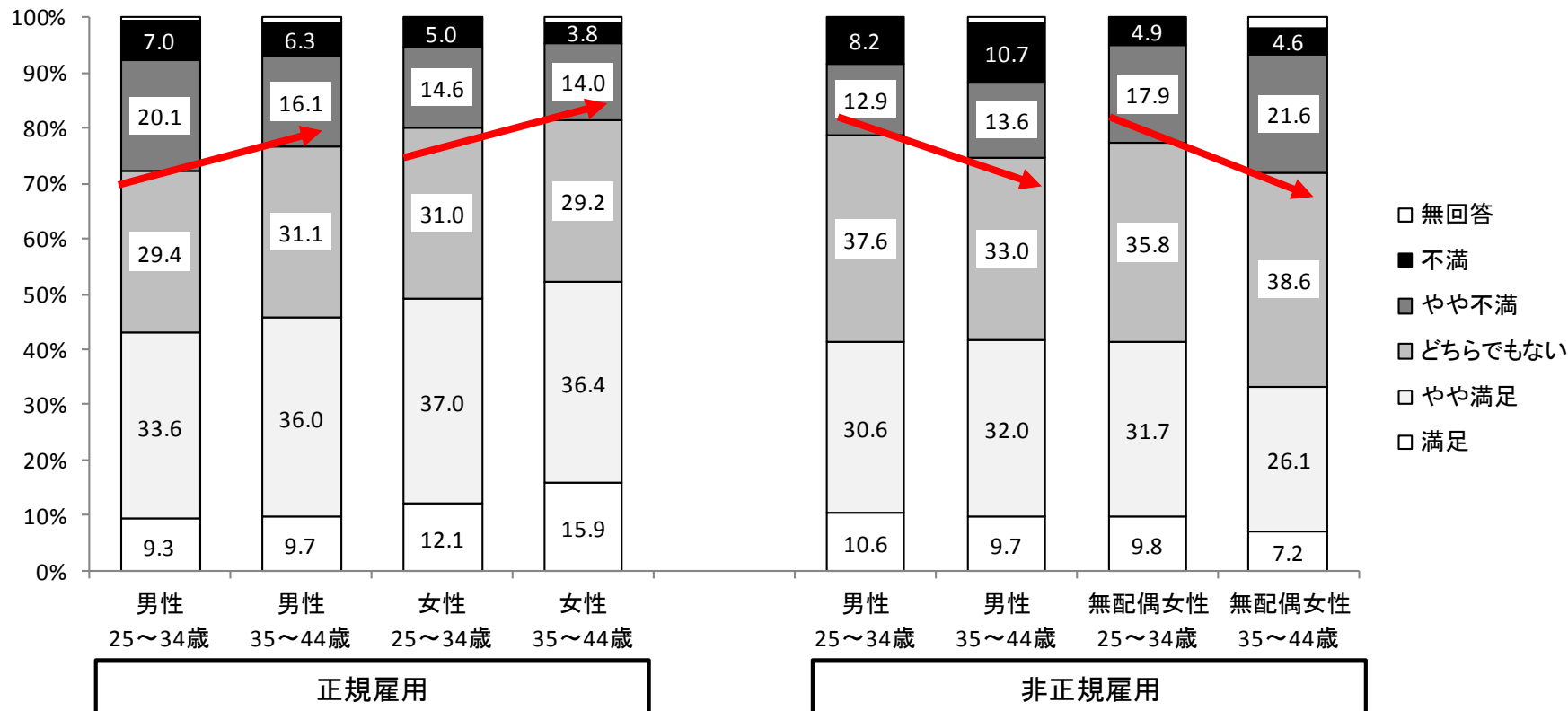
➡ 正規雇用の場合とは異なり、男性、無配偶女性の非正規雇用では、年齢が高いほど生活水準が低い。

1. はじめに (2)予備的分析

④年齢と仕事満足度

「今の仕事全体」に対する満足度

資料出所：JILPT編(2014)巻末集計表より。



➡ 正規雇用の場合とは対照的に、男性、無配偶女性の非正規雇用では、年齢が高いほど仕事不満が強い。

1. はじめに (3)問題設定

- (既婚女性を除く)非正規雇用労働者は、年齢が高いほど「不本意」であり、仕事への不満が強く、生活も困窮している。
- そのことを踏まえ、本研究では、年齢によって正規転換の実態がどう異なるのかを明らかにする。
- その際、正規転換の発生(=量的側面)だけでなく、その質的側面にも注目する。
- それらの作業を通じて、「不本意非正規の正規転換」政策のあり方に関して、必要な含意を導く。

2. 先行研究 (1)正規転換の発生

文献	データ	分析対象	モデル	正規転換の発生要因
玄田(2008)	「就業構造基本調査」(2002年)	過去1年に非正規から離職した者	二項プロビット	男性、若年、高学歴、非正規として2～5年勤続、完全失業率が低い地域
小杉(2010)	JILPT「働くことと学ぶことについての調査」(2008年)の経歴データ	「前職非正規」かつ「現職正規または非正規」である者	二項ロジット	男性、若年、非正規としての勤続が長過ぎない
酒井・樋口(2005)	「慶應家計パネル」(2004年)の経歴データ	学校卒業1年後にフリーター	Cox比例ハザード(?)	男性、高学歴
山本(2011)	同上	初職非正規	Cox比例ハザード	男性、若年、高学歴、完全失業率が低い時期
四方(2011)	「慶應家計パネル」(2004～08年)	調査期間中、非正規だったことがある者	離散時間ロジット	男性、若年、専門・技術職、非正規としての勤続年数が長くない

結果はほぼ一致

- ⇒ 男性、若年、高学歴は正規転換しやすい。
- ⇒ 非正規継続年数(短過ぎず長過ぎず)、完全失業率(の低さ)も効いている。

2. 先行研究 (2)正規転換の質

①高い年齢での正規転換は質が高い？

JILPT編(2013)によれば、35歳以上で正社員に転換した人の大半は、転換時に客観的にも主観的にも大きなプラスの変化を経験している。

- YA氏(女性)は、37歳で内部登用により非常勤職員(時給1300円)→常勤職員(年収400万円強)に。仕事へのモチベーションの回復を語る。
- YK氏(男性)は、39歳で契約社員(年収約340万円)→正社員(年収約400万円)に。「自分をちょっと褒めてあげたい」と語る。
- YO氏(男性)は、36歳で家族従業員(月収20万円程度)→正社員(月収27万円)に。調査時点では年収約500万円。「今はもう胸張って自分の背中を自分の子供たちに見せられる」とのこと。
- YP氏(女性)は、43歳でパート(時給1000円)→「正社員」(月給24万円＋賞与)に。現在の仕事に導いてくれたすべての人に「ほんとうに感謝」。
- YW氏(男性)は、39歳で契約社員(月給22～23万円)→正社員(年収400万円程度)に。余暇生活の充実(音楽鑑賞、楽器演奏)を語る。
- YY氏(女性)は、40歳でパート(時給1200円)→正社員→正社員(年収約350万円)に。職場は「縦社会」なので、正社員だと意見が通りやすくてよいという。

2. 先行研究 (2)正規転換の質

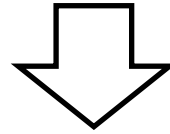
②高い年齢での正規転換は質が低い？

同じくJILPT編(2013)によれば、35歳以上の非正規雇用労働者には、正規雇用になると収入が下がる、労働負荷が高まるなどの理由から、正規転換をためらっている人もいる。

- XD氏(男性、38歳、契約社員、年収300万円強)は、正社員として働いている友人の話を聞いても、「仕事がきつい」、「サービス残業がある」、「それほど給料もよくない」など、悪い話ばかりしか耳に入ってこないことから、正社員になることを希望していない。
- XE氏(男性、38歳、契約社員、年収300万円弱)は、「社会的な信用」や「安定」を考えれば、正社員として働く方がよいと考えている。しかし、期待通りの転職ができる自信がないこと、「変わって本当にうまくいくのか」という疑問や、「40に近い年齢で、失敗した後の処理が大変そう」という不安があることから、「踏み出しにくい」と感じている。
- XF氏(未婚女性、42歳、派遣社員、年収約300万円)は…正社員にならねばならないと感じてはいるが、実際には転職活動には踏み切れていない。その理由としては、年収が下がるリスクを踏んでまで転職活動をする気になれないこと…などがあげられる。

2. 先行研究 (3)本研究の課題

年齢が高いと正規転換が発生しにくくなることは、ほぼ確実。
他方、正規転換の質については不明点が多い。



- まず、正規転換の発生要因を再確認する(a)。
- その上で、年齢により正規転換の質がどのように異なるのかを、総合的に検証する。
 - (b) 正規転換による収入変化
 - (c) 正規転換後の離職(定着率)
 - (d) 正規転換者の仕事満足度
- なお、既婚女性は除外する。

3. データとモデル (1)データ

- JILPT「職業キャリアと働き方に関するアンケート」(2013年7～8月実施)。※実査は(株)日経リサーチに委託。
- 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出。
- 調査対象者は、25～34歳の男女3,000名、35～44歳の男女7,000名。※調査の目的から35～44歳をオーバーサンプリング。
- 調査員による訪問面接と留置きとの併用。
- 計4,970名から回収。(有効回収率49.7%)
- 面接票で、調査対象者の中学卒業後の職業キャリアを月単位で把握。
- 調査票、基礎集計表はJILPT編(2015)に掲載。

3. データと分析モデル (2)モデル

(a) 正規転換の発生

- 離散時間ロジットモデル(二項ロジット)。
- 調査対象者の職業キャリアについて、月単位のパーソン・ピリオドデータを作成し、非正規雇用のレコードを分析対象とする。
- 次期に正規雇用になれば1(3ヶ月以内の無業期間は許容)、非正規雇用のままなら0、自営・4ヶ月以上の無業なら欠損。
 - 対象者数:961人。
 - パーソンピリオド:66,949件。
 - イベント(正規転換)発生数:448件(411人)。
 - 繰り返しイベントであることを考慮し、「正規転換経験あり」ダミーを導入。
- 説明変数:性別、年齢、教育年数。
- 統制変数:非正規継続期間、完全失業率、「正規転換経験あり」ダミー。
- クラスターロバスト標準誤差を使用(Stata12 “vce(cluster id)”)。
- 記述統計量は付表参照。

3. データとモデル (2)モデル

(b) 正規転換による収入変化

- 順序ロジスティック回帰分析。
- 男性・未婚女性の正規転換448件(411人)を対象とする。
- 被説明変数: 正規転換による収入変化(月収ベース)をあらわす5段階変数(1大きく減少～5大きく増加)

	大きく減少	やや減少	ほぼ同じ	やや増加	大きく増加	計
24歳以下(N=207)	2.4	4.8	15.5	45.9	31.4	100.0
25～29歳(N=138)	2.9	10.9	21.0	42.8	22.5	100.0
30歳以上(N=103)	9.7	13.6	22.3	34.0	20.4	100.0
正規転換計(N=448)	4.2	8.7	18.8	42.2	26.1	100.0

- 説明変数: 性別、正規転換時の年齢、教育年数。
- 統制変数: 非正規継続期間、「正規転換2度目」ダミー、無業期間、有効求人倍率、転換前の雇用形態。
- 記述統計量は付表参照。

3. データとモデル (2)モデル

(c) 正規転換後の離職

- 離散時間ロジットモデル(二項ロジット)。
- 男性・未婚女性の正規転換448件(411人)について、その後の職業キャリアを分析対象とする。
- 次期が同じ勤務先であれば0、離職(転職・無業)であれば1。
 - 対象者数:448件(411人)。
 - パーソンピリオド:32,306件。
 - イベント(離職)発生数:226件。
- 説明変数:性別、正規転換時の年齢、教育年数。
- 統制変数:正規転換後の継続期間、「正規転換2度目」ダミー、正規転換時の収入変化。
- クラスターロバスト標準誤差を使用(Stata12 “vce(cluster id)”)。
- 記述統計量は付表参照。

3. データとモデル (2)モデル

(d) 正規転換者の仕事満足度

- 順序ロジスティック回帰分析。
- 男性・未婚女性で、正規転換してから調査時点まで同じ勤務先で働いている220人が対象。(被説明変数が無回答の2人は除く。)
- 被説明変数:「今の仕事全体」についての満足度(1不満～5満足)

	不満	やや不満	どちらでもない	やや満足	満足	計
正規転換者(N=220)	9.5	15.5	31.8	35.0	8.2	100.0
参考: 男性・未婚女性非正規(N=388)	7.0	16.8	36.3	30.4	9.5	100.0

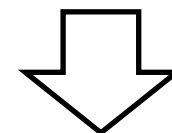
- 説明変数: 正規転換時の年齢。
- 統制変数: 性別、年齢、教育年数。
- 記述統計量は付表参照。

4. 分析結果 (a)正規転換の発生

被説明変数＝正規転換	男性・未婚女性					
	モデル①			モデル②		
	Coef.	Robust Std. Err.		Coef.	Robust Std. Err.	
非正規継続_3ヶ月以内	-0.938	0.265	***	-0.961	0.266	***
非正規継続_4～6ヶ月 (非正規継続_7～12ヶ月)	-0.339	0.202	†	-0.358	0.202	†
非正規継続_13～24ヶ月	-0.318	0.150	*	-0.290	0.150	†
非正規継続_25～36ヶ月	-0.224	0.160		-0.145	0.161	
非正規継続_37～60ヶ月	-0.609	0.165	***	-0.467	0.167	**
非正規継続_61～84ヶ月	-0.922	0.206	***	-0.705	0.210	**
非正規継続_85～120ヶ月	-0.964	0.228	***	-0.673	0.239	**
非正規継続_121ヶ月以上	-0.946	0.254	***	-0.465	0.281	†
完全失業率	-0.294	0.056	***	-0.225	0.058	***
正規転換経験あり	0.102	0.167		0.358	0.171	*
女性ダミー				-0.814	0.111	***
年齢				-0.041	0.011	***
教育年数				0.085	0.026	**
定数	-3.270	0.247		-3.452	0.404	
N		66949			66949	
人数		961			961	
Wald chi2		91.3	***		158.83	***
Pseudo R2		0.0161			0.0321	

注: ***:p<0.001、**:p<0.01、*:p<0.05、†:p<0.1

- 非正規継続7～12ヶ月、完全失業率が低い時期が、正規転換しやすい。
- 男性、若年、高学歴ほど正規転換しやすい。



先行研究とほぼ同じ結果であり、正規転換者のデータとして信頼できる。

4. 分析結果 (b)正規転換による収入変化

被説明変数 =収入変化(5段階)	男性・未婚女性			
	モデル①		モデル②	
	Coef.	Std. Err.	Coef.	Std. Err.
非正規継続_3ヶ月以内	-0.188	0.483	0.030	0.487
非正規継続_4～6ヶ月	-0.250	0.375	-0.236	0.373
(非正規継続_7～12ヶ月)				
非正規継続_13～24ヶ月	-0.343	0.282	-0.268	0.283
非正規継続_25～36ヶ月	-0.447	0.296	-0.311	0.300
非正規継続_37～60ヶ月	-0.671	0.307 *	-0.443	0.320
非正規継続_61～84ヶ月	-0.458	0.372	-0.103	0.394
非正規継続_85～120ヶ月	-0.409	0.425	-0.007	0.456
非正規継続_121ヶ月以上	-0.790	0.446 †	-0.100	0.508
正規転換2度目	-0.456	0.310	-0.048	0.328
無業期間	-0.188	0.105 †	-0.153	0.105
有効求人倍率	0.519	0.368	0.519	0.379
前職_契約・嘱託・派遣	-0.671	0.184 ***	-0.672	0.193 ***
女性ダミー			0.195	0.210
転換時年齢			-0.067	0.022 **
教育年数			0.181	0.052 **
/cut1	-3.558	0.427	-2.660	0.880
/cut2	-2.320	0.382	-1.398	0.859
/cut3	-1.137	0.368	-0.191	0.853
/cut4	0.762	0.365	1.756	0.857
N		448		448
LR chi2		30.71 **		47.49 ***
Pseudo R2		0.0249		0.0385

注: ***:p<0.001、**:p<0.01、*:p<0.05、†:p<0.1

- 無業期間がある(長い)とやや増加しにくい。
- 契約・嘱託・派遣からの正規転換だと、増加しにくい。
- 男女差なし。
- 若年ほど増加(※)。
- 高学歴ほど増加。

※ちなみに、若年ほど増加(=年長ほど増加しない)ことについては、高橋(2010, 2012)、小野(2014)の正規転換後の賃金決定、格付けに関する企業事例調査結果とも整合的。

4. 分析結果 (c)正規転換後の離職

被説明変数 ＝離職(転職または無業化)	男性・未婚女性					
	モデル①		モデル②		モデル③	
	Coef.	Std. Err.	Coef.	Std. Err.	Coef.	Std. Err.
正規転換後_3ヶ月以内	-0.849	0.377 *	-0.865	0.379 *	-0.877	0.379 *
正規転換後_4～6ヶ月	-0.522	0.359	-0.532	0.361	-0.540	0.361
正規転換後_7～12ヶ月						
正規転換後_13～24ヶ月	-0.604	0.238 *	-0.570	0.237 *	-0.539	0.237 *
正規転換後_25～36ヶ月	-0.328	0.234	-0.258	0.236	-0.208	0.235
正規転換後_37～60ヶ月	-0.817	0.236 **	-0.694	0.238 **	-0.616	0.238 *
正規転換後_61～84ヶ月	-1.323	0.301 ***	-1.151	0.310 ***	-1.055	0.311 **
正規転換後_85～120ヶ月	-1.363	0.294 ***	-1.127	0.307 ***	-0.996	0.309 **
正規転換後_121ヶ月以上	-1.576	0.291 ***	-1.186	0.337 ***	-0.986	0.344 **
正規転換2度目	0.210	0.260	0.353	0.269	0.356	0.281
女性ダミー			0.532	0.145 ***	0.590	0.149 ***
正規転換時の年齢			-0.032	0.016 †	-0.043	0.017 *
教育年数			-0.051	0.040	-0.037	0.041
収入変化(5段階)					-0.225	0.067 **
定数	-4.162	0.170	-2.795	0.595	-1.879	0.658
N		32306		32306		32306
人数		411		411		411
Wald chi2		52.44 ***		69.38 ***		79.88 ***
Pseudo R2		0.0209		0.0278		0.032

注: ***:p<0.001、**:p<0.01、*:p<0.05、†:p<0.1

- 正規転換後7～12ヶ月が最も離職しやすい(＝定着しにくい)。
- 女性ほど、転換時の年齢が若いほど離職しやすい(＝定着しにくい)。
- 転換時に収入が増加しなかった者ほど離職しやすい(＝定着しにくい)。

4. 分析結果 (d)正規転換者の仕事満足度

被説明変数 =仕事満足度(5段階)	男性・未婚女性			
	モデル①		モデル②	
	Coef.	Std. Err.	Coef.	Std. Err.
正規転換時の年齢	-0.016	0.021	0.001	0.024
女性ダミー			-0.150	0.316
年齢			-0.047	0.026 †
教育年数			0.086	0.067
/cut1	-2.704	0.639	-2.786	1.321
/cut2	-1.551	0.614	-1.627	1.309
/cut3	-0.177	0.605	-0.226	1.305
/cut4	1.968	0.633	1.957	1.317
N		220		220
LR chi2		0.573		6.644
Pseudo R2		0.003		0.031

注: ***:p<0.001、**:p<0.01、*:p<0.05、†:p<0.1

- 転換時の年齢の効果は有意でない。
- 女性ダミー、年齢、教育年数をコントロールしても同じ。

5. 考察 (1)分析結果のまとめ

	若年者	年長者
(a) 正規転換の発生確率	高い	低い
(b) 正規転換の質：収入増加	大きい	小さい
(c) 正規転換の質：その後の定着率	低い	高い
(d) 正規転換の質：仕事満足度	n.s.	

年齢が若いと、正規転換時の収入増加が大きい
が、その後の定着率は低い



Why ?

年齢が高いと、正規転換時の収入増加が小さい
が、その後の定着率は高い

5. 考察 (2)非正規雇用に対するイメージ

「あなたは、自分の身近にいる「非正規雇用者」に対してどのような印象をお持ちですか。」

	大いに あてはまる	ある程度 あてはまる	あまり あてはまら ない	まったく あてはまら ない
雇用が安定している	3点	2点	1点	0点
賃金が高い	3点	2点	1点	0点
仕事の負担が重い	0点	1点	2点	3点

非正規時代の経験の代理指標として、0点～9点の「非正規雇用に対するイメージ」得点を作成する(左表)。



被説明変数 ＝非正規雇用に 対するイメージ	男性・未婚女性			
	モデル①		モデル②	
	Coef.	Std. Err.	Coef.	Std. Err.
正規転換時の年齢	-0.029	0.016 †	-0.034	0.018 †
女性ダミー			0.502	0.237 *
年齢			-0.005	0.019
教育年数			0.073	0.050
定数	4.263	0.456	3.476	0.975
N		220		220
F値		3.209 †		2.418 *
調整済みR2乗		0.010		0.025

注: ***: p<0.001、**: p<0.01、*: p<0.05、†: p<0.1

正規転換時の年齢が高い者ほど、「非正規雇用に対するイメージ」得点は低い(OLS)。



非正規時代の(ネガティブな)経験が、正規転換後の定着率の高さに影響している可能性。

6. おわりに (1)含意

- 正規転換者の大半は収入増加を経験。仕事満足度も、非正規よりは高い。若年であれ年長であれ、不本意非正規の正規転換を量的に増やすべきことは、たしか。
- ただし、若年と年長とで、支援の力点は異なるべき。
 - 若年者は、正規転換による収入増加が大きくても、その後に離職しやすい。若年の正規転換は、キャリアのゴールとしてではなく、適職探しの一環と考えることも必要。その意味で、収入以外の側面も含めた、より良いマッチングが課題。
 - 年長者は、正規転換による収入増加が小さくてもその後の定着率が高いことから分かるように、正規転換を切望していると考えられる。正規転換の発生確率も低いことから、チャンスがあればできるだけ早く正規雇用し、という視点が重要。
- なお、中長期的には、企業の（正規雇用の）採用管理の見直しや、非正規雇用の労働条件の底上げが必要であることは言うまでもない。

6. おわりに (2)残された課題

- 統計技術上の問題——年齢層により抽出率が違う点、約30年間の正規転換ケースを同列に扱っている点、など。
- 今回の報告では、「転職による正規転換」のみを扱っており、「内部登用」を扱えていない。
- 正規転換時の年齢だけでなく、職種・業種に着目した分析も必要。(ただし、サンプルの細分化により、的確な分析ができなくなる恐れはある。)
- JILPT編(2013)の正規転換者のケースに、典型的な「成功事例」が多いのはなぜか。

記述統計量

分析(a) 正規転換の発生					
	N	Mean	Std. Dev.	Min	Max
正規転換	66,949	0.007	0.082	0	1
非正規継続_3ヶ月以内	66,949	0.066	0.247	0	1
非正規継続_4～6ヶ月	66,949	0.062	0.241	0	1
非正規継続_7～12ヶ月	66,949	0.109	0.312	0	1
非正規継続_13～24ヶ月	66,949	0.169	0.375	0	1
非正規継続_25～36ヶ月	66,949	0.124	0.330	0	1
非正規継続_37～60ヶ月	66,949	0.173	0.379	0	1
非正規継続_61～84ヶ月	66,949	0.114	0.318	0	1
非正規継続_85～120ヶ月	66,949	0.100	0.300	0	1
非正規継続_121ヶ月以上	66,949	0.083	0.276	0	1
完全失業率	66,949	4.364	0.775	2.00	5.50
正規転換経験あり	66,949	0.077	0.267	0	1
女性ダミー	66,949	0.431	0.495	0	1
年齢	66,949	28.160	5.919	15.08	44.67
教育年数	66,949	13.369	1.877	9	18

分析(b) 正規転換による収入変化					
	N	Mean	Std. Dev.	Min	Max
収入変化(5段階)	448	3.772	1.063	1	5
非正規継続_3ヶ月以内	448	0.045	0.207	0	1
非正規継続_4～6ヶ月	448	0.076	0.265	0	1
非正規継続_7～12ヶ月	448	0.185	0.389	0	1
非正規継続_13～24ヶ月	448	0.205	0.404	0	1
非正規継続_25～36ヶ月	448	0.161	0.368	0	1
非正規継続_37～60ヶ月	448	0.150	0.357	0	1
非正規継続_61～84ヶ月	448	0.071	0.258	0	1
非正規継続_85～120ヶ月	448	0.058	0.234	0	1
非正規継続_121ヶ月以上	448	0.049	0.216	0	1
正規転換2度目	448	0.083	0.276	0	1
無業期間	448	0.337	0.836	0	3
有効求人倍率	448	0.769	0.237	0.42	1.44
前職_契約・嘱託・派遣	448	0.400	0.490	0	1
女性ダミー	448	0.239	0.427	0	1
正規転換時の年齢	448	26.385	5.446	16.25	43.58
教育年数	448	13.600	1.841	9	18

分析(c) 正規転換後の離職					
	N	Mean	Std. Dev.	Min	Max
離職(転職または無業化)	32,306	0.007	0.083	0	1
正規転換後_3ヶ月以内	32,306	0.041	0.199	0	1
正規転換後_4～6ヶ月	32,306	0.040	0.196	0	1
正規転換後_7～12ヶ月	32,306	0.075	0.264	0	1
正規転換後_13～24ヶ月	32,306	0.130	0.336	0	1
正規転換後_25～36ヶ月	32,306	0.110	0.313	0	1
正規転換後_37～60ヶ月	32,306	0.174	0.379	0	1
正規転換後_61～84ヶ月	32,306	0.126	0.332	0	1
正規転換後_85～120ヶ月	32,306	0.131	0.338	0	1
正規転換後_121ヶ月以上	32,306	0.173	0.378	0	1
正規転換2度目	32,306	0.053	0.225	0	1
女性ダミー	32,306	0.187	0.390	0	1
正規転換時の年齢	32,306	30.538	5.686	16.25	44.92
教育年数	32,306	13.515	1.859	9.00	18.00
収入変化(5段階)	32,306	3.962	1.003	1	5

分析(d) 正規転換者の仕事満足度／解釈					
	N	Mean	Std. Dev.	Min	Max
女性ダミー	220	0.191	0.394	0	1
年齢	220	35.786	5.351	25	44
教育年数	220	13.877	1.840	9	18
正規転換時の年齢	220	27.532	5.696	17	43
仕事満足度	220	3.168	1.091	1	5
非正規雇用に対するイメージ	220	3.464	1.373	0	8

参考：正規転換者のプロフィール（職種、業種、企業規模は転換後）

	(実数)			
	計	24歳以下	25～29歳	30歳以上
合計	448	207	138	103
男性	341	161	109	71
女性	107	46	29	32
中学卒	11	7	3	1
高校卒	188	110	40	38
短大・高専卒	130	62	40	28
大学卒	112	27	51	34
大学院卒	7	1	4	2
専門・技術職	119	45	44	30
管理職	12	4	7	1
事務職	53	21	17	15
営業職	39	20	11	8
販売職	22	15	0	7
運輸・通信・保安職	45	24	12	9
技能・労務職	69	32	23	14
農・林・漁業	7	4	1	2
サービス職（資格要）	34	20	7	7
サービス職（資格不要）	37	17	12	8
その他	11	5	4	2
農・林・漁業	8	3	4	1
鉱業・建設業	47	28	7	12
製造業	87	38	35	14
情報通信業	22	7	10	5
運輸業	36	19	10	7
金融・保険業	7	3	2	2
小売業	40	22	7	11
飲食サービス業	37	21	10	6
医療・福祉	54	18	15	21
教育・学習支援業	15	4	6	5
公務	22	15	6	1
その他	71	29	24	18
無回答	2	0	2	0
1000人以上	75	37	23	15
100～999人以下	113	50	36	27
99人以下	251	114	76	61
官公庁	8	6	2	0
無回答	1	0	1	0

	(列%)			
	計	24歳以下	25～29歳	30歳以上
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
男性	76.1	77.8	79.0	68.9
女性	23.9	22.2	21.0	31.1
中学卒	2.5	3.4	2.2	1.0
高校卒	42.0	53.1	29.0	36.9
短大・高専卒	29.0	30.0	29.0	27.2
大学卒	25.0	13.0	37.0	33.0
大学院卒	1.6	0.5	2.9	1.9
専門・技術職	26.6	21.7	31.9	29.1
管理職	2.7	1.9	5.1	1.0
事務職	11.8	10.1	12.3	14.6
営業職	8.7	9.7	8.0	7.8
販売職	4.9	7.2	0.0	6.8
運輸・通信・保安職	10.0	11.6	8.7	8.7
技能・労務職	15.4	15.5	16.7	13.6
農・林・漁業	1.6	1.9	0.7	1.9
サービス職（資格要）	7.6	9.7	5.1	6.8
サービス職（資格不要）	8.3	8.2	8.7	7.8
その他	2.5	2.4	2.9	1.9
農・林・漁業	1.8	1.4	2.9	1.0
鉱業・建設業	10.5	13.5	5.1	11.7
製造業	19.4	18.4	25.4	13.6
情報通信業	4.9	3.4	7.2	4.9
運輸業	8.0	9.2	7.2	6.8
金融・保険業	1.6	1.4	1.4	1.9
小売業	8.9	10.6	5.1	10.7
飲食サービス業	8.3	10.1	7.2	5.8
医療・福祉	12.1	8.7	10.9	20.4
教育・学習支援業	3.3	1.9	4.3	4.9
公務	4.9	7.2	4.3	1.0
その他	15.8	14.0	17.4	17.5
無回答	0.4	0.0	1.4	0.0
1000人以上	16.7	17.9	16.7	14.6
100～999人以下	25.2	24.2	26.1	26.2
99人以下	56.0	55.1	55.1	59.2
官公庁	1.8	2.9	1.4	0.0
無回答	0.2	0.0	0.7	0.0

引用文献

- 小野晶子(2014)「第Ⅰ部 総論」JILPT編『非正規雇用者の企業・職場における活用と正社員登用の可能性―事業所ヒアリング調査からの分析―』JILPT, pp.1-36.
- 玄田有史(2008)「前職が非正社員だった離職者の正社員への移行について」『日本労働研究雑誌』No.580, pp.61-77.
- 小杉礼子(2010)「第2章 非正規雇用から正社員への移行の規定要因の検討」JILPT編『非正規社員のキャリア形成―能力開発と正社員転換の実態―』JILPT, pp.40-82.
- 酒井正・樋口美雄(2005)「フリーターのその後―就業・所得・結婚・出産」『日本労働研究雑誌』No.535, pp.29-41.
- 四方理人(2011)「非正規雇用は『行き止まり』か?―労働市場の規制と正規雇用への移行」『日本労働研究雑誌』No.608, pp.88-102.
- 高橋康二(2010)「第Ⅱ部第4章 百貨店D社」JILPT編『契約社員の人事管理―企業ヒアリング調査から―』JILPT, pp.48-55.
- 高橋康二(2012)「第Ⅱ部第3章 製造C社」JILPT編『「多様な正社員」の人事管理―企業ヒアリング調査から―』JILPT, pp.37-44.
- 山本雄三(2011)「非正規就業する若者が正社員へ移行する要因は何か―継続期間データを用いた規定要因分析」小杉礼子・原ひろみ編著『非正規雇用のキャリア形成―職業能力評価社会をめざして』勁草書房, pp.80-124.
- JILPT編(2013)『壮年期の非正規労働―個人ヒアリング調査から―』JILPT.
- JILPT編(2014)『壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究―現状分析を中心として―』JILPT.
- JILPT編(2015)『日本人の職業キャリアと働き方―JILPT「職業キャリアと働き方に関するアンケート」調査結果より―』JILPT.

ご清聴ありがとうございました。

Your questions and comments are always welcome.
t_koji@white.plala.or.jp